



倒産集計

(28年1月の繊維関連企業の倒産)

株式会社 信用交換所京都本社

年初から件数、負債額ともに増加、負債1億円以上の倒産が目立つ

▼全国▲ 発生件数=44件 負債額=83億6800万円

2016年(平成28年)1月の全国繊維業者の倒産(負債額1000万円以上=整理・内整理含む)は44件、前月比で12件(37.5%)、前年同月比6件(15.8%)それぞれ増加した。

負債額は83億6800万円で、前月比37億7400万円(82.2%)、前年同月比37億1300万円(79.8%)の各プラスで、件数、負債額ともに前月および前年同月を大きく上回っている。

負債額10億円以上の倒産は、(株)WOMB(神戸市、紳士カジュアルウェア小売、負債額10億6400万円)1社のみ。同5億円以上はなかった。昨年までは繊維業界全体の市場規模の縮小、事業者数の減少基調から比較的負債額の小さい(同1億円未満)倒産が主流を占めたが、当月は負債額1億円以上の倒産の増加が目立った。

今後の推移でも、小規模倒産の趨勢には大きな変化はないものと思料される。また、倒産ではなく、自主廃業や繊維事業からの撤退といったケースが目立ち、昨今の地価上昇に乗じ、保有資産(土地建物等)売却で債務返済して廃業する、または、資金的な余力があるうちに人員整理等のリストラ、仕入先への決済、銀行への借入金返済等を実施して資産管理会社に転換を図る、といったケースも目立ち始めている。

小売の市況では、年初から百貨店、大手スーパー等の初売り商戦は、消費者の嗜好、ニーズの細分化等といった要因から、総じて良かったとは言えないものの、近年急増する外国人観光客らによる旺盛な消費意欲(インバウンド)がけん引して、一部店舗では非常に好調だったとの声が聞かれるなど、地域、店舗業態などによる格差が目立っているようだ。

一方、原油価格の下落、中国経済の成長鈍化、それ以外でも世界情勢のマイナス要因が影響して年初から株価が低迷。先行きに不安感が増すなか、日銀がマイナス金利政策の導入を決定、平成24年4月に導入した量的・質的金融緩和は大きな転換点を迎えつつある。

業種別では、「紳士・婦人・子供服・被服製造卸」が17件、「小売商」13件、「ニット製品・洋品雑貨製造卸」「織物製造」各5件、「呉服・和装製品製造卸」2件、「染色整理・特殊加工」「織物卸」各1件となった。

原因別では、「業績ギリ貧」が31件で全体の7割強(70.5%)を占め、以下「業況急変」9件、「資金力薄弱」2件、「放漫経営」「信用度薄弱」各1件となっている。

▼京都▲ 発生件数=3件(前年同月0件) 負債額=5億1000万円(前年同月0円)

▼滋賀▲ 発生件数=0件(前年同月1件) 負債額=0円(前年同月1000万円)

28年1月の京滋管内の倒産企業一覧

会社名	所在地	業種	倒産態様
(株)藍香房	京都市下京区	染呉服製造	破産手続開始(1.13)
田重機業(株)	京都府京丹後市	白生地製造	破産申請へ(1.27)
三和(株)	京都市中京区	染呉服製造	破産申請へ(1.27)